



医療費の中学生無料化と 高校生の助成は

山岡 幹雄議員

できることは、来年度から実施したい
市長

問 市の人口の推移と今後の見通しは。

答 国勢調査による人口推移は、平成12年6万5597人をピークに減少し、27年には6万3088人。今後の見通しは、何の対策も講じない場合、市の人口ビジョンでは令和7年に5万9千人を下回る推計だ。

問 人口減少を食い止めるためには、市で育った若い世代がふるさとに帰って子どもを産み育てる流れが大切だ。市の考えは。

答 この地で育った若者が、ここで子どもを生み育てるといふ、次の時代への引き継ぎ、受け継ぎが必要だと考える。

問 子ども医療費無償を中学生まで拡大し、高校生に対して医療費の助成を行うことが、出生率の引き上げや子育て世代の増加につながる。市長の見解は。

答 3党派から、子ども医療費助成の拡充を求める要望書が提出された。内容について十分な検討をし、できることは来年度から実施したい。

環境に優しい まちづくりは

問 環境美化の推進について、どのように取り組んだか。

答 生活環境や自然環境の美化を図ることを目的に、毎年11月の第2日曜日に、ごみゼロ運動を実施している。

問 ごみのポイ捨てが無くならないのはなぜか。

答 ごく一部の心無い方のモラルの問題だ。

問 ごみを出さない工夫として経済産業省は循環型社会を形成するため、リデュース、リユース、リサイクルの3Rを行っている。市も取り組まな

答 ごみの発生を抑制（リデュース）、再利用（リユース）、再生（リサイクル）、限りある資源を有効に繰り返し使う循環型社会の形成に向けて、取り組む必要がある。

その他の質問

- 防災気象情報と警戒レベルの対応は
- 安心安全なまちづくりの取り組みは



▲ 予防接種の風景